

1 研究主題

心豊かでたくましい児童・生徒を育てる
 — 他者とともによりよく生きる —

2 はじめに

昨年度と同じように今年度も、各研究員が行った道徳科の授業をお互いに実践報告することで研究を進めてきた。さらに、道徳の教科化を受け、評価につながる児童生徒の実態や変化を授業者が把握するために、どのような方策があるのかということ念頭に置いて研究を重ねることとした。

3 研究経過

毎月1回の教育研究会開催日には、小・中学校合同で各部員が授業実践を報告して、4人グループの話し合い、全体協議という流れで研究会を進めた。特に今年度は児童生徒の変容をとらえることができるように、資料の提示の仕方や発問だけではなく、ワークシートの作り方についても議論した。また、研究会で所有している文献・資料を部員に貸し出し、積極的に新しい実践に取り組めるような環境作りにも取り組んできた。研究日の開催日は、以下の通りである。

- ① 4月23日 ② 5月7日 ③ 6月11日 ④ 7月2日 ⑤ 9月10日
 ⑥ 10月8日 ⑦ 11月12日 ⑧ 1月14日 ⑨ 2月4日

4 研究の概要

道徳科の時間の実践報告を行い、資料紹介の他に授業展開や学習形態が報告され、それについて質問や意見交換などがなされた。(下記の表は、報告された実践例の一部)

資料	実践内容
教科書 (小学生)	○「やめなさいよ」(善悪の判断・自律・自由と責任)【小1】 ・ 間違っことを行った友達を正す「わたし」を描いた物語を通して、正しいことを進んで行くとどんな気持ちになるかを考えさせた。1年生は、自分の思いを文字化することが難しいので、アンケートで自分の考えに近いものに丸を付けて答えさせ、考えを明確にするという手法が紹介された。文章表記で道徳の評価を示す上で、1年生の難しさに気付かされる教材となった。 ○「持ってあげる?食べてあげる?」(親切・思いやり)【小3】 ・ 下校時に友達のランドセルを持ってあげたり、給食の時間に友達の嫌いなナスを食べてあげたりする「わたし」の姿が本当にやさしい人の行動なのかどうかを考える教材である。役割演

	<p>技をしながら、相手の押しつけに協力せず、相手が納得できたり、相手のためになったりする断り方を考えさせた。「本当に優しい人の行動」の難しさや、相手が納得する断り方など多様な対応があることに気付かされる教材となった。</p> <p>○「ここを走れば」（規則の尊重）【小6】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 危篤の祖父のもとへ向かうときでさえ交通ルールを守る父親と、その姿を見つめる「ぼく」の姿を通して、人々のどんな考えが法やきまりを支えているのかを考え、自分だったらどうするか考えさせ議論させた。大人でも意見が分かれる難しい場面だが、児童は意見を交流させる中で自分勝手な考え方をせず、法やきまりの重要性に気付き、社会生活上のきまりや基本的なモラルなどについて、考えを深めることができた。
<p>教科書 (中学生)</p>	<p>○「あなたは顔で差別をしますか」（相互理解・寛容）【中3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2歳の頃に海綿状血管腫瘍を発症した藤井輝明さんが顔の奇形を理由にした壮絶ないじめの経験から考える教材となっている。もし、藤井さんがそばにいたら、自分はどのような行動をとるべきなのかという発問で、問題をより身近なものとし、具体的な意見の交流を促した。差別をせずに行動することは、時に大人でも難しいことだが、藤井さんの生き方を通して、差別を乗り越え行動しようとする強い気持ちを育ませる教材となった。 <p>○「償い」（生命の尊さ）【中3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さだまさしさんの「償い」という歌の歌詞から考える教材で、交通事故の加害者・被害者をめぐる事実に基づく話である。7年間仕送りを続けても癒すことのできない被害者の奥さんの気持ちを考えさせることで、命の尊さについて考えさせた。授業の展開としては、グループで話し合うことに重点をおき、何度も話し合いをさせた。振り返りの中には、友達の意見を聞いてはっとしたというものもあり、グループで対話することの重要性を改めて認識させられる教材となった。

5 今後の課題

研究会では、各研究員が自身の学級の実態をもとに厳選したさまざまな資料を毎回紹介する方法で進めてきた。実践報告会後の意見交換では、小グループで話し合いの後、授業展開や資料の提示方法など活発な話し合いをすることができた。そして、その授業のねらいとする価値にどれだけ迫ることができたかということ深く考えることができた。

道徳の教科化に伴い、今年度から小・中共に道徳の教科書を使用している。教科書教材での共有をはかり、今何に困っているのか、評価をどのように進めているかなどの情報を共有することができた。今後もこの会では、授業提案とともに、記録の取り方、よりよい評価のあり方を共有していけたらと考える。